

会 議 録

会議の名称	総合計画進行管理会議（令和5年度 第2回）
開催日時	令和5年7月12日（水） 午前10時から午前12時00分まで
開催場所	和泉市役所 3階庁議室
出席者	【出席者】 森吉副市長、吉田副市長、小川教育長、小泉参与、山本危機管理部長、 並木市長公室長、前田総務部長、山崎環境産業部長、西川福祉部長、 立花市民生活部長、山本子育て支援室長（子育て健康部長代理）、 八木都市デザイン部長、佐々木学校園管理室長（教育・こども部長代理）、 辻生涯学習部長、林田上下水道部長、岡田消防長 【事務局】 （政策企画室） 東政策企画室長、藤井企画経営担当課長、左海政策・資産マネジメント担当課長 中総括主査、江口主査、岸尾主事
会議の議題	1. 第1回進行管理会議のおさらい 2. 意見交換
会議の要旨	令和5年度第1回進行管理会議のおさらいと、第6次総合計画策定に向けての意見交換を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録

	【次第１ 第１回進行管理会議のおさらい】
森吉副市長	○第１回第５次総合計画進行管理会議のおさらいについて、事務局より説明願う。
事務局	（事務局【政策企画室】から、資料１、２を説明）
森吉副市長	○人口推計期間について、市長の意見を踏まえ変更になる可能性もあるが、本会議では、前回会議での意見や他市の状況等を踏まえ、２６年間として進めていく。
吉田副市長	○人口推計期間を国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）が出す期間に合わせる理由が必要。議会からも問いかけがあるかもしれない。 ○和泉市の政策の最終地点（ターゲットイヤー）をどこに置くかが重要であり、社人研の数値と比較することが必要という理由だけでは弱い。 ○ターゲットイヤーを長く置いても、社人研の推計と比較することはできる。
辻部長	○市制１００周年が第６次総合計画のターゲットイヤーになるとは思わない。
小泉参与	○これまでもターゲットイヤーは計画最終年度としてきた。ターゲットイヤーの解釈が違うのかもしれない。
山崎部長	○人口推計は、個別事業の実施を考える際に使われるものであり、総合計画の大きなくくりの中でどう生かされるかは別の話ではないか。
事務局	○社人研の推計期間と合わせる理由は二つある。一つは市独自でつくったものの信憑性を確かめるためと、もう一つは市制１００周年時点の人口が少なくなりすぎて直近で取組むべき施策が弱気になる可能性があるため。
吉田副市長	○社人研の推計から割り戻して市の人口推計を出すわけではないので、事務局が示した内容を市長に説明する資料に記載しておいてほしい。
森吉副市長	○社人研の推計期間と和泉市の人口推計期間と合わせることにについてしっかりした理由を資料に示し、市長に説明していくこととし、本会議においては２０５０年までとする。

森吉副市長	【次第２ 意見交換】 【第６次総合計画・次期和泉創発プランの策定について】 ○第６次総合計画・次期和泉創発プランの策定について事務局より説明願う。
	(事務局【政策企画室】から、資料３を説明)
小泉参与	○総合計画は市長が変更の必要性があると判断すれば変更することもあるが、基本的には市長が変わっても変わらないもの。
森吉副市長	○第３次総合計画の時に市長が変わり、１年間先延ばしにしたことがあり、就任した市長によっては、総合計画の見直しが必要になることもある。
吉田副市長	○市長任期と合わせることに賛成だが、中間見直しをしないという考えと、市長が変われば変更することもあるという考えは矛盾するのではないか。
森吉副市長	○次期和泉創発プランが４年ごとに改訂され、総合計画の基本構想部分に反映されるのであれば内容もそれに合わせて改訂されるものと思われるが、中間見直しをしないと言い切る理由はあるか。
事務局	○今までの中間見直しについては、基本構想部分はそのままで、基本計画部分を見直してきており、第６次総合計画については構想部分のみの構成となるので、見直しは必要ないと考えている。
吉田副市長	○新しい市長が中間見直しをすると決めれば見直しをすると思うので、事務局が言いたいのは見直しをしないことを前提として第６次総合計画を策定するということと認識した。
森吉副市長	○総合計画は先を見越して策定するものなので、中間見直しをしないと決めつけるのではなく、トップが変わった場合に変更できるような考え方を持つておく必要がある。それが分かるように資料で表現してほしい。
	○総合計画と和泉創発プランに重複感があるという記載があるが、基本計画部分を作る必要がないといえる理由まで述べる必要があるのではないか。重複感だけでは理由が乏しいので、理由付けをしっかりとっておきたい。
	○個人的な感覚として、総合計画は見られる機会が少なく、議会も含め和泉創発プランを注目していることから、今の総合計画はエネルギーを注いだ割には活用されていない。
前田部長	○和泉市自治基本条例の中で目標の達成方針を定めることになっているので、第６次総合計画にも分かるように示してほしい。
吉田副市長	○総合計画の下位計画として個別計画があると思うので、第６次総合計画での位置づけについて整理が必要。

事務局	○基本構想部分に基本計画部分と個別計画部分を紐づけていくイメージをしている。
西川部長	○個別計画策定の際は総合計画を意識して策定している。また、基本計画と個別計画と重複している部分もあるので、今の総合計画の基本計画部分は不要ではないか。
小泉参与	○基本計画部分は和泉創発プランだけではなく、次期和泉創発プランと個別計画が担うという説明であったと思う。
森吉副市長	○関係性を絵で見れるように事務局で作成したものを、各委員と共有してほしい。
吉田副市長	○個別計画は国が示すものに合わせる関係上、計画期間がずれることがあるので、それをどうするか検討してほしい。また、政策企画室だけで進めることは困難であると思うので、各部局長の意見を聞きながら進めてほしい。
森吉副市長	○過去に、個別計画の計画期間を総合計画策定後の1年後に合わせたこともあったが、国の流れに合わせざるを得ない部分もあった。個別計画で、基本計画をどうカバーするかについて考えておいてほしい。
立花部長	○基本計画は政策レベルで紐づけしておかないと、基本構想と整合性がつけにくいのではないかと。また、基本計画を策定しないのであれば市政運営方針をどのように作っていくのか。政策部分まで基本計画に書かなければ影響が出てくるところもあるのではないかと。
事務局	○市政運営方針では、総合計画と次期和泉創発プランを紐づけすることで作っていく。
森吉副市長	○財政の収支見通しを10年とする理由の説明が必要。
森吉副市長	【「各機関の役割について」「第6次総合計画作成に向けた外部意見の聴取について」】 ○「各機関の役割について」及び「第6次総合計画作成に向けた外部意見の聴取について」事務局より説明願う。 (事務局【政策企画室】から、資料4、5を説明)
森吉副市長	○「学識アドバイザー」と「外部意見聴取の学識」の違いは何か。
事務局	○学識アドバイザーは総合計画全体をトータルでコーディネートするもの。外部意見聴取の学識は各分野の専門家の意見を聞くもの。

山崎部長	○いろんなところに学識等が入っているが、そもそもコンサルが学識のような仕事をするものではないのか。専門的なアドバイスができるコンサルを選んではどうか。
森吉副市長	○コンサルや学識の役割について整理してほしい。
小川教育長	○体系図をどこかで示すのであれば、それぞれの学識の違いがわかるように表現してほしい。
吉田副市長	○人と議論していく中から新しい考えが生まれてくる。ほかの人がどう思っているのかを意識しながら意見をもらってほしい。また、チャット等を活用し、リアルタイムで有識者に知ってもらいながら意見を聞くのもいいのでは。
小川教育長	○第6次総合計画についてはどのように進行管理を行うのか。
事務局	○第6次総合計画と次期和泉創発プランの進行管理を一体的に行うよう整理していきたい。
森吉副市長	他に何か意見あるか。他になければ、事務局から次回以降の事務連絡を願う。
事務局	○事務局より以下について説明 ・第3回会議は8月10日（木）に開催予定。
森吉副市長	○それでは、本日の総合計画進行管理会議については以上とする。

会議の意見を踏まえた対応	
○総合計画、次期創発プラン、個別計画の体系を絵で分かるようにし、各委員と共有する。 ⇒ 事務局で資料を作成し、各委員と共有する。	
○学識の役割について整理する。 ⇒ 事務局で役割を明確にした資料を作成し、各委員と共有する。	